

JP労組ジェンダー平等推進へ向けた取り組み

～誰もが自分事として参画し、ともに歩む組織へ～

JP労組は、2022年からの「フェーズ1」の取り組みを経て、2025年から「JP労組ジェンダー平等推進計画フェーズ2」をスタートさせました。

世界経済フォーラムが示す日本のジェンダー・ギャップ指数の低さに代表されるように、社会全体におけるジェンダー平等の実現は今や待ったなしの課題です。私たちJP労組においても、この社会的な課題に向き合うことが組合員の幸せに直結するという認識のもと、運動をさらに進めていく必要があります。



これまでの運動を通じて、定期全国大会における女性代議員比率が初めて30%を超えるなど、意思決定の場において確実な前進が見られました。しかし、日々の支部活動を見渡せば、女性の役員数や役員比率は未だ道半ばであり、さらなる体制づくりの必要性が浮き彫りになっています。

フェーズ2では、執行機関等への女性参画率30%の達成、その先の50%を目指します。これは特定の役員数や役員比率の向上だけにとどまらず、女性組合員一人ひとりが日々の活動に加わり、多様な声を運動へと反映させていくための足掛かりです。そのためにも、ジェンダー平等の理解促進と参加しやすい活動への見直し、誰もが声を上げやすい環境づくりと女性役員の育成を一体的に展開していきます。

性別・年齢・雇用形態等によらず、すべての組合員が自分事として意見を発信し参画できる組織へと変革していくこと。誰もが安心して働き暮らせる職場と社会の実現に向け、JP労組としてここ岩手の地から、着実に歩みを重ねてまいります。

JP労組岩手連絡協議会

議長 三角 克太